

創立30年記念誌

拡げようボートで繋げる地域の絆



全国ボート場所在市町村協議会



INDEX

- 01 発刊のことば 全国ボート場所在市町村協議会 会長 田中 幹夫
富山県南砺市長
- 03 お祝いのことば 国土交通省水管理・国土保全局長 山田 邦博
- 04 年表と写真で見る30年の歩み
第一章 「草創期」
第二章 「基礎固めの時代」
第三章 「成長の時代」
- 08 記念座談会
- 13 ボート競技普及活動連鎖プログラム
- 14 これからの協議会に期待すること 《加盟自治体首長32名》
- 25 資 料
- 36 私の歩んだ九十余年 ～鎧塚最高顧問の個人史～
- 37 首長会議（ボートサミット）
- 40 市町村交流レガッタ
- 51 全国のボートコース
- 53 ボートサミット・交流レガッタ開催地一覧表
- 54 1964 東京オリンピック
- 55 2020 東京オリンピックコース
- 編集後記

発刊のこぼ

全国ボート場所在市町村協議会 会長
富山県南砺市長 田中 幹夫



この度、全国ボート場所在市町村協議会創立30年を記念して、全国ボート場所在市町村協議会創立30年記念誌を発刊する運びとなりました。30年という節目を無事迎えることが出来たのも、日頃からお世話になっている皆様方のご理解・ご協力の賜と深く感謝致しております。

全国ボート場所在市町村協議会の創立は、昭和63年(1988)年10月22日に第1回漕艇場所在市町村協議会の名称で福井県美浜町にて総会を開催しました。発足時は中部圏内の9市町でしたが、翌年から中部圏以外の秋田県本荘市(現由利本荘市)、千葉県小見川町(現香取市)、鳥取県米子市も新規加入をしたことで全国ボート場所在市町村協議会に改名されました。

爾来、30年の歳月が経過したわけではありますが、今日に見る全国ボート場所在市町村協議会の伝統と、輝かしい歴史を築き上げてこられた鎧塚最高顧問はじめ歴代会長、諸先輩方に、ここに改めて深甚なる敬意と感謝の意を表すものであります。

これまでの輝かしい歴史を改めて見直しますと、その歴史を途絶えることなく継承していく責任の重さを痛感するとともに、歴史を引き継ぐ者として節目である創立30年を契機に、創立時の理念に立ち返り、真摯に日々を積み重ね新しい歴史を築いていくとの決意を強くする次第であります。

当協会の役割は、加盟市町村が町おこしに行っている住民レガッタの助長とボート競技の発展活動であります。住民レガッタの優勝クルーは平成4年の第1回美浜町大会から毎年持ち回りで開催されております全国交流レガッタで一同が会し、熱戦を繰り広げております。

それらは、日本のボート競技の発展増進に寄与するべく、多くの加盟自治体の首長が研究研鑽に励み、各々のボート場環境を整えながら幾多の困難に打ち克って、地道に活動を行って参りました。

30年の節目を迎えるにあたり、諸先輩方のご苦勞や多くの方々のご支援の数々に思いを致す時、感謝の念で一杯です。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が間近に迫ってまいりましたが、我々にとって大きな喜び、そして大きなチャンスとなっております。

この記念誌は、私達の歴史であると共に、取りも直さず日本ボート界の歴史の一端でもあります。従って加盟自治体は、この歴史の上に立って、今後一層の団結を強化して加盟促進に努力すべきであると思えます。

そして全国ボート場所在市町村協議会は50年、100年に向け脈々と発展を続けるためには、ボート場という共通財産を持つ競技の振興だけではなく、あらゆる面で広域な意見を交わし交流を深めることにより、それぞれが抱える課題の解決にも一定の道筋を見出し地域振興の一助になるものと考えております。併せて今日を契機に改めて加盟自治体の揺ぎない絆がさらに強固となることを願ってやみません。

記念誌編纂に際しましては貴重な資料や写真のご提供、ご助言やご支援を賜りました多くの方々や、編纂委員会として労を取られました皆様に深く感謝申し上げますとともに、次代を担う加盟自治体諸氏により、本協議会が更に繁栄していくことを期待して発刊のご挨拶と致します。

お祝いのことば

国土交通省水管理・国土保全局長

山田 邦博



全国ボート場所在市町村協議会が創立30年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。また、常日頃より当省が推進しております河川行政にご理解とご協力を賜っておりますことに、心から御礼を申し上げます。

貴協議会が、昭和63年の創立より一貫して、ボート競技の振興はもとより、一層の地域振興につながる活動を継続してこられましたことに、深く敬意を表します。

オリンピック開催を3年後に控えた現在において、ボート場をひとつの財産として地域の魅力を高め、地方創生の推進につなげていこうとする皆様の活動は、大変意義深いものであり、魅力的な水辺づくりを進める当省としても、引き続き応援させていただきたいと考えております。

全国ボート場所在市町村協議会及び会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



熊本県菊池市 竜門ダム



埼玉県戸田市 彩湖

第一章 「草創期」

1987

(昭和62年)

6月20日

綿田美浜町長から中部漕艇連盟(現 中部ボート連盟) 鑑塚理事長に漕艇場を活用した地域活性化策の打診を受ける。

全国ボート場所在市町村協議会発足の原点となる。

10月17日

国体の遺産を守り続ける下諏訪町民レガッタを視察。

12月5日

中部漕艇連盟理事会で各県漕艇協会に協会創立の協力を促す。

1988

(昭和63年)

4月

美浜町、津幡町、津川町(現 阿賀町)・両津市(現 佐渡市)、下諏訪町、川辺町、大台町、天竜市(現 浜松市)、東郷町から加盟の承諾を得る。

10月22日

第1回漕艇場所在市町村協議会が美浜町で開催。



1989

(平成元年)

昭和63年10月22日(土)
9:30-15:20
福井県美浜町
美浜町中央公民館

10月14日

中部圏以外の本荘市(現 由利本荘市)、小見川町(現 香取市)、米子市も新規加盟をしたことで「全国漕艇場所在市町村協議会」に改名決定。
全国市町村交流レガッタ開催の提案があり可決。

1992

(平成4年)

8月29日

「全国ボート場所在市町村協議会」に改名。
初代会長として遠藤岐阜県川辺町長が就任。

協議会のエンブレムを制定。

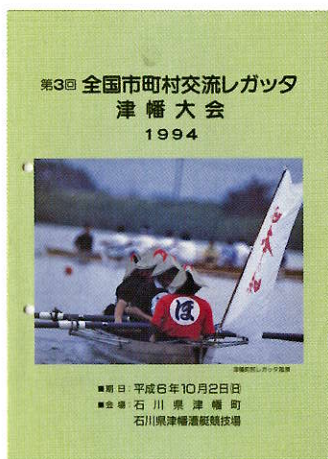


遠藤元川辺町長



10月18日

第1回全国市町村交流レガッタ美浜大会を開催。



1994

(平成6年)

10月2日

第3回全国市町村交流レガッタ津幡大会から議会の部が創設。



1999

(平成11年)

8月21日

中谷天竜市長(当時会長)から協会旗を寄贈。



中谷元天竜市長



2003

(平成15年)

9月27日

加盟自治体と参加クルーの増加によって、第12回全国市町村交流レガッタ東郷大会以降、大会開催期間を2日間とした。



全国ボート場所在市町村協議会

2004

(平成16年)

9月25日

第13回全国市町村交流レガッタ美浜大会から予選日を原則初日とした。

第二章 「基礎固めの時代」

2005

(平成17年)



大久保 尚武 名誉顧問

9月24日

第14回全国市町村交流レガッタ浜松大会において第1回議長懇話会が開催。

2008

(平成20年)

8月9日

最高顧問に鎧塚 一 氏、名誉顧問に大久保 尚武 氏（(公社)日本ボート協会 会長長）が就任。

表彰内規の改正に伴い、次の個人及び各市町が表彰される。

鎧塚 一、中谷良作、石川伸作、綿田光雄、高木清充、遠藤 稔

美浜町、下諏訪町、加古川市

9月27日

第17回全国市町村交流レガッタ海津大会から熟年男子の部、熟年女子の部が創設。

2009

(平成21年)

10月3日

第18回全国市町村交流レガッタ下諏訪大会から議会議員シニアの部が創設。

2011

(平成23年)

3月11日

東北地方を中心とした、東日本大震災地震が発生。

協議会から被災加盟自治体へ見舞金を謹呈。

7月1日

第20回全国市町村交流レガッタは、震災による甚大な被害を受けた潮来市での開催が困難となったため、豊岡市において代替開催が決定。



9月24日

豊岡市において第20回全国市町村交流レガッタを代替開催。20回を記念して、男女総合優勝（最高顧問杯）・女子総合優勝（会長杯）が創立。

第三章 「成長の時代」

2012
(平成24年)

7月27日

「災害時相互応援協定」が成立され、加盟24自治体間で締結。

2013
(平成25年)

6月1日

表彰内規の改正に伴い、次の各市町が表彰。
阿賀町、津幡町、川辺町、浜松市、東郷町、大台町、由利本荘市、香取市

2015
(平成27年)

7月17日

菊池市における第28回全国ボート場所在市町村協議会首長会議は台風の影響で、創立以来初の中止。第24回全国交流レガッタ津幡大会において、代替会議を開催。



2016
(平成28年)

2月19日

創立30年を翌年度に控え、沿革史の作成と30年表彰が提案され、30年沿革史編成準備委員会を設置。

2017
(平成29年)

協議会がめざすもの



館顧問 田中会長 鎧塚最高顧問 大久保名誉顧問

平成28年9月18日 埼玉県戸田市 戸田公園管理事務所

◎対談者 鎧塚最高顧問、大久保名誉顧問（日本ボート協会会長）、田中会長（富山県南砺市長）

◎コーディネーター 館顧問（日本ボート協会顧問）

過去を振り返る



（館顧問） 鎧塚さん、最初に伺いますが協議会の設立の動機は何だったのですか？

（鎧塚最高顧問） 昭和54年に愛知県体育協会に関わったことが縁で、いろいろな競技団体と話す機会が増えました。ボート以外の競技団体は、一般市民や少年層への普及と強化に力をいれていることが分かって、親子ボート教室を手掛けましたが、手応えは殆どありませんでした。その時のショックが、この協議会設立の原点の一つでした。

（田中会長） それまでスポーツ界はアスリート志向だったのが、健康増進や生涯スポーツにその目的と対象が広がって来たんですね。

（館顧問） そういう時代背景の中で、ボート以外の競技団体は既にレクリエーションスポーツへの普及を盛んに進めていたということですね。

(鎧塚最高顧問) 中部漕艇連盟内でボートも当然、新たな普及活動を推進するべきだという議論で盛り上がり、自治体も巻き込んで手始めに中学生の大会を立ち上げたんですよ。でも、ナックルとシングルを8年間続けましたが、7校の参加だけでしたね。

(館顧問) 中学生のきっかけから始まりましたが、今の住民レガッタを見ると、たくさんの大人が漕いでいるわけですよね。この辺の過程はどうなんですか？

(鎧塚最高顧問) それは、親が漕げば子どもも漕ぐ、子どもが漕げば親も漕ぐと確信し、ボートコース周辺の地域の皆さんが参加する住民レガッタに力を入れたからです。

(館顧問) なるほど。その頃は既にどこかの市町村では住民レガッタが始まっていたんですよね。

(鎧塚最高顧問) そうです。全国で幾つか住民レガッタが行われていました。そのなかで国体の遺産を活かしたまちづくりを下諏訪町が打ち出したわけです。そこで住民レガッタを盛んにしようと考えていた中部圏の漕艇協会と一緒に下諏訪町の町民レガッタを視察し、それが契機となって、ボートサミットの結成に至りました。当初は、中部9市町に限っていたんですよ。この協議会の原点です。



(大久保名誉会長) 先に中学生選手権を設立して、次に強化する目的というか、そのために協議会を立ち上げたその順番が僕には非常に意外でしたね。

(鎧塚最高顧問) これは、親子が家族団らんの中で自然にボートの話が出る環境を創ることが、中学生の増加に繋がると思っていたからなんです。交流レガッタは、最初は副次的な感じですね。

(大久保名誉顧問) 副次的というけどね、議会と自治体をも巻き込んだということは、一種まちおこしとボートの隆盛を結びつけたというのは、非常に歴史的な功績だと思ってるんだよね。

(田中会長) 中学校って市町村の管轄ですから、地元自治体の理解がないとね。

(鎧塚最高顧問) そこら辺を理解してくれて、艇や道具を揃えてくれた市町村があったことはありがたかったね。

(田中会長) それから首長だけではなくて、議会というところがすごい！議長懇話会、これすごい力があるんですよ。首長と議会の両方が注目するというのは他にないですからね。

(館顧問) この発想には非常に感心した！

(鎧塚最高顧問) ただの思いつきみたいな形で始まったのですかね。

現状評価、課題、そして今後の展望と期待

(館顧問) 当初7校で始まった中学生選手権ですが、加盟している数は今は中学校が25校、クラブが36まで増えたんですよ。

(田中会長) 多分、中学校が増えると、クラブも増えますよ。親が真剣になりますからね。

(鎧塚最高顧問) 中学選手権は、選手が1,000人いたら応援する親は2,000人来るんだよね。



(大久保名誉会長) 今年の中学選手権は40団体なんです。中学校が20校、クラブが20でちょうど半々なんです。それでね、中学校が毎年減っているんです。なかなか学校の範囲で活動できなくて、むしろクラブの方に移っていったらいいんですよ。

(田中会長) 今、スポーツは、そういう傾向があります。いろんな問題があったり、学校で活動をやるのが難しいんですよ。

(鎧塚最高顧問) もう東郷町は委託で地域クラブで中学生を指導をしているんですよ。

(大久保名誉顧問) 地域クラブを充実させていくということに、この協議会の意味も非常にあると思いますね。今まで中学校に頼っていたのが、地域クラブに中心を持っていかなきゃいかんという、それが次の課題なんじゃないかな。

(田中会長) まさにその通りですね。

(鎧塚最高顧問) 結局、僕の結論もそこにある。

(館顧問) 現在の課題は少子化で中学生の数が減る上、学校側も指導する先生を確保したり、安全が配慮された環境を整え難い。そうすると、地域クラブの出番ですが、お金の面も含め地域クラブを行政が加勢しないとうまくいかない部分があると思うんですよ。田中会長、そのへんはご苦労されていませんか？

(田中会長) これまでも学校が単独で巨額の費用を投資するのは現実的ではないので、やっぱり行政に頼っていますよね。これから学校のクラブ活動が継続的にできなくなるのであれば、地域クラブを育成していくのが大事だと思いますね。地域クラブに国の補助金を上手に活用してもらって、ポートを取り込んでもらえる仕組みが出来ればいいんですけどね。



(大久保名誉顧問) 行政としての仕組みはあるんですか？

(田中会長) 今、NPO化、または一般、地域クラブにもいろいろな形態があります。市町村からの補助金制度があるから、そういう意味では連携はしていますよ。

(鎧塚最高顧問) そうそう、都道府県のポータ協会がNPO法人を取得して、他の競技と一緒に、地域クラブになったところがありますよ。

(田中会長) 逆にその動きはいいと思いますね。実際、NPOは増えています。

(館顧問) ある程度、法人化が進まないと受け皿にならないんですよ。

(田中会長) ただ、自治体に大きく期待されると種目が沢山ありすぎて…。この協議会も発足した当時の9市町も合併して、相当変わっているじゃないですか。継続されているところもあるし、分からなくなっているところもあるので…。少しは落ち着いてきましたけどね。



(鎧塚最高顧問) 今の加盟自治体は、吸収合併されたけど“ポートの町”というフレーズは必ず入っているよね。

(田中会長) 私のところは、村から市へ合併しましたが、中心的なスポーツを推進していこうという動きがあったんですが、いざ合併するとなんとなく薄れるところがありますね。地域の事情があるんですよ。

(大久保名誉会長) やっぱり、強い競技に傾きますよね。

(館顧問) 市町村合併でそれまでの住民レガッタが町内対抗みたいな形になって、新しくボートを始めた地域も加わって一体感が醸成されるとか、ボートはそんな役割もあるという話を聞いたことがあります。

(田中会長) ここでエピソードを聞きたいんですが、鎧塚さんが全国を駆けめぐられた時代の苦労話を。車をどこまで走らせたか？

(鎧塚最高顧問) ほぼ全国のボートコースを勧誘で訪ねましたが、苦労とは思っていなかった。といいますのは、それしかなかったんです。〇〇市が加盟しないなら次はどこにしようかという作戦を練って、それをひとつずつ崩していっただけ。

(田中会長) もともとドライブ好きでもあるんですね？

(鎧塚最高顧問) そうですね。それで思い出というか意外だったのは、九州を回った時に九州の住民レガッタ、結構、普及していることにビックリしましたね。九州地方の加盟は5県もありますからね。

僕は、交流レガッタの動向に非常に関心があるんです。今回、1番驚いたのは、いつも一発決勝だった熟年女子の部が20クルーくらい増えている。涙が出るくらい嬉しかったなあ。

(館顧問) そのうちのひとつに、未加盟の陸奥からオブザーバーとして参加していますよ。

(大久保名誉会長) 横浜市鶴見区も興味を示していますよね。面白い話ですね。

(田中会長) でも、人口規模がちょっと大きいから横浜市で入るのは無理がありますね。

(鎧塚最高顧問) 市の承認で、区で加盟してくれば良いよね。浜松市天竜区みたいに。東京都は特別区だから、江戸川区が入るような感じで。



(館顧問) そうですね。これからさらに拡大する時は、加盟条件などいろいろなきめ細かい対応が必要になってくるんじゃないかなと思うんですね。

(館顧問) ところで大久保さん、日本のボートにとって、この協議会が非常に重要であるということをお感じになっているからこそ、毎回、交流レガッタを観戦いただいているのだと思いますが、日本ボート界の長として今後のこの協議会に対する期待、どうでしょう？

(大久保名誉顧問) 昭和60年かな、世界Jr選手権東ドイツ大会に行って、クラブを視察しましたが、艇庫の壁に飾ってあるクラブ出身のメダリストの写真が宝だと言うんですよ。なるほどな、クラブってこういう形で形成されているんだと関心しました。当時のドイツは国の制度で12歳からスポーツが強化されるんですが、選択肢の中にボートがあって、ちょうど中学生から漕ぎだす格好なんですよ。この協議会が地域クラブをどういう形で育てていくか大いに期待しています。

(鎧塚最高顧問) そのためには、強いメンタルを持った指導者養成の体制づくりが必要なんじゃないかな。

(館顧問) 一般住民への普及とアスリート層を育てる強化の両立ですね。

(大久保名誉顧問) 強力なリーダーシップは必要ですよ。指導者のみならず、それをサポートする地元の関係先でも。もし自治体や企業が指導者や選手の受け入れに理解を示さなかったら、現在のように教師や選手として地元へ帰る者がいなかったでしょうね。今はNPO法人の受け入れもあるから、そういう広がりの中で、地元へ帰れる仕組みを仕掛けるべきだと思うんですよ。





(館顧問) 首長として田中会長に質問ですが、この協議会がポート以外で相当な広がりを見せていると思いますが、もっとちがった方向で協力関係を築きたいとか抱負みたいなものはございませんか？

(田中会長) 例えば去年の熊本地震では「災害応援協定」が初めて執行され、市町村間の連携が機能されていることはしっかり確認できました。それと今後も更に首長同士が大会やポートサミットの際に、ネットワークを上手く絡めてプラスαのものを発信し合うと、もっと強い繋がりが出来きてる気がします。

(鑑塚最高顧問) そこまでやっていただくと、本当に有り難いですよ。

(田中会長) 議会と一緒にやれるというのがいいんですよ。

(大久保名誉会長) 議長懇話会もあるんだから、今仰られたことと絡めながらやっていくと、非常に活性化するでしょうね。



(田中会長) そこで、住民レガッタを応援したり、盛り上げたり、真似したり、次に続く動きが出てくると、さっきの地域クラブに繋がっていくのかもしれないですね。設立30年の機に今後の協議会の使命みたいなものを、地域クラブに持っていくというのはいいかもしれないですね。

(大久保名誉顧問) これから次の50年、60年とか、それを目指して新しい課題がまた見えてきていますね。

(田中会長) 会長に就任して分かりましたが、仲間がいたり、その繋がりが素晴らしいと実感しました。首長さんにはこの30年を機会に、改めて少し自覚していただき盛り上げてもらえるような節目にしたいと思っています。酒を酌み交わしながら首長同士でじっくりと話をする。1番いいのは、歴代の会長が、バックアップしていただいている。これがいいんですよ。これを他の首長連合で真似しようと思っているんですけどね。

(館顧問) 歴代の会長さん、素晴らしいですからね。

(鑑塚最高顧問) 最後にもう一度言いたいのですが、この協議会の今後は、やっぱり地域クラブの育成とその指導者のメンタルを高めることが課題ですよ。資格だけでなく、指導力のある新しいブロック長みたいな人材が必要になってくるんじゃないかな。

(館顧問) 本当に素晴らしい対談になりました。皆さん、長時間に渡り、ありがとうございました。

ボート競技普及活動連鎖プログラム

- ステップ1** コースの認定=日本ボート協会
理由) 水上スポーツであるがうへの競技者のための安全確保
→ コース、乗艇場-乗り降りし易い
申請-行政の認識、モチベーション
川、ダムを活用する「まち起こし」「ボートのまち」推進策
- ステップ2** ボート競技人口の拡大→親子ボート教室-県ボート協会の指導
意義) 日常の親子の共通の話題(親子のコミュニケーション)
- ステップ3** 市町村民レガッタの開催-参加率(参加者/人口)=5%目標
行政の関与度-0でも100でも不可
- ステップ4** 指導員育成を目的とした仲間づくり
→ C級審判員の確保-日ボ
→ 地域指導員(旧C級指導員)の確保-日体協
- ステップ5** フォロー講習(審判員、指導員)-県ボ(普及部、審判部)
→ 義務化の必要性
目的) 地域スタッフの定着化
- ステップ6** 自治体ボート協会の設立
→ 行政の関与度の希釈化-住民レガッタの自主運営=財源確保
- ステップ7** 自治体協会各部(セクション)の整備
総務-資金集め
競技-組み合わせ、運営企画(施設、水路)
審判-協会内で確保
強化-交流レガッタ出場クルー
協会理事会の目標-生涯体育
- ステップ8** 行政の関与度、ボート協会の組織力向上→自主運営を継続
- ステップ9** 総合型地域スポーツクラブの設立(ボートを核として)

これからの協議会に期待すること



青森県 むつ市長
宮下 宗一郎

協議会創立30年を迎える本年から加盟させていただく当市は、本州最北端・下北半島に位置し、北に「津軽海峡」西に「日本海」南に波穏やかな「陸奥湾」を抱える自然豊かな下北ジオパークの中核都市であります。ボート競技は広く市民に親しまれておりますが、さらなる普及・振興に向けて、加盟市町村の皆様には、今後ともご指導賜りますようお願いいたします。



岩手県 花巻市長
上田 東一

当市は、平成28年希望郷いわて国体の会場として、全国からたくさんの皆様に来ていただきました。感謝申し上げます。

また、2020年東京オリンピックの事前合宿地として、準備に取り組んでまいります。加盟市町村の皆様には、今後ともご指導いただきますようよろしくお願いいたします。



秋田県 由利本荘市長
長谷部 誠

この記念すべき年に、本市を会場として「全国市町村交流レガッタ由利本荘大会」が開催されますことは、誠に嬉しいものと感じております。

全国ボート場所在市町村協議会におかれましては、今後とも、ボート場という共通の財産を有する市町村間の交流の促進並びに、ボート競技の普及振興にご尽力いただきますと共に、益々のご発展をお祈り申し上げます。





秋田県 大潟村長
高橋 浩人

大潟村では平成2年から加盟し、村民の競技人口が増えたことはもちろん、中学生を対象としたクラブが設立され、中学、高校、大学、社会人とボートを続け活躍する選手も現れるなど、人材の育成にもつながっております。

東京オリンピックで活躍する村出身の選手が現れることを楽しみに、ボートの普及と振興に共に取り組んで行きたいと思っております。



宮城県 登米市長
熊谷 盛廣

最高顧問を始め、役員の皆様におかれましては、本会発展のためにご尽力を賜り、その熱意に深い敬意と感謝を申し上げます。今後も、多くの関係皆様の相互交流や情報交換をとおして、より一層のボート競技の普及振興を図ることができるよう、本協議会の益々のご発展を祈念いたします。



福島県 喜多方市長
山口 信也

平成23年3月に発生した東日本大震災から早や6年が経過しました。その年、豊岡市で開催された市町村交流レガッタでは、多くの皆様から励ましの言葉をいただきました。この励ましは、私たちにとって、復興への歩みを加速させる大きな力となりました。心から感謝申し上げます。

本協議会では、この東日本大震災を契機に、長年の友好関係が創り出した「絆」を大きな力とし、災害時相互応援協定が締結されました。今後も、未加入市町村の加入促進を図り、この災害時相互応援協定の拡大と本協議会の「絆」が更に強固なものとなりますよう、お力添えをよろしくお願い申し上げます。





茨城県 潮来市長
原 浩道

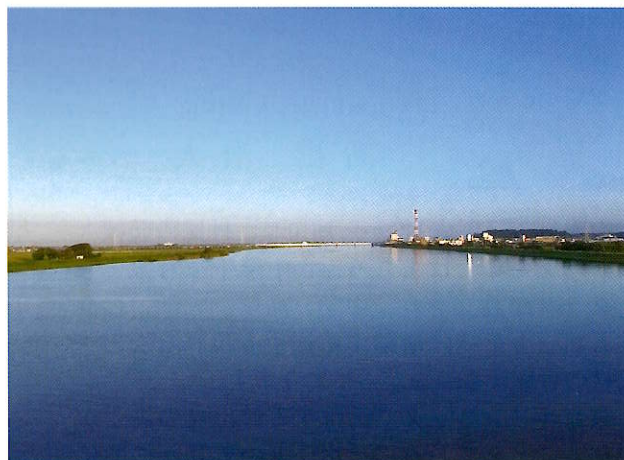
全国ボート場所在市町村協議会は、広くボート競技の普及に大きな役割を担ってこられました。

協議会のこのような実績は、現会長をはじめとする歴代会長、役員の方々並びに加盟自治体の皆様方のご尽力によるものであり、深く敬意を表す次第でございます。

折しも、潮来市は、平成31年茨城国体のボート、トライアスロン、オープンウォータースイミング、三つの競技の会場となっております。茨城国体の成功のため、協議会の皆様の一層のお力添えをお願いするところであります。

創立30年を迎え、これまでの実績と信頼をもとに、ボート競技の普及に一層ご尽力され、活力ある市民生活・地域づくりに大きな役割を果たされることを期待しております。

結びに、本誌編集にご尽力されました皆様方に感謝申し上げますとともに、全国ボート場所在市町村協議会の益々のご発展をご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



埼玉県 戸田市長
神保 国男

第25回全国市町村交流レガッタ戸田大会では、全国から大変多くの方に御参加いただき、誠にありがとうございました。

大会を終え、市民と協働で開催できたこと、そして、全国の皆様と交流を深められたことが何よりの成果であったと感じております。

「戸田はボートの聖地」であり、これからも皆様の御期待に応えられるような素晴らしいまち

であり続けられるよう努力してまいります。

全国ボート場所在市町村協議会には、引き続きボート競技の底辺拡大を担っていただくとともに、各市町村間のパイプ役として益々御発展いただくことを切に願っております。



千葉県 香取市長
宇井 成一

ボート場を保有する市町村は全国でも少ない中、御協会を通じて得られる情報は香取市にとって貴重なものでした。また、「全国市町村交流レガッタ」等を通じて、加盟市町村と交流を深めることもできました。

協議会には、今後とも、加盟市町村の交流促進や、ボート競技の益々の振興に向けたご支援をよろしくお願い致します。





新潟県 阿賀町長
神田 敏郎

ボートを通じ、皆様には日頃より多大なご支援を賜っておりますことに厚く感謝申し上げます。

阿賀町は平成17年に津川町、鹿瀬町、上川村、三川村の4町村が合併し誕生いたしました。全国ボート場所在市町村協議会には、旧津川町時代の昭和63年の発足当時から加盟をさせていただいております。

新潟県立津川漕艇場は、町を縦断する阿賀野川にあり、平成25年には第22回の全国市町村交流レガッタを当町において開催し、全国の加盟市町村から大勢のみなさんをご参加いただきましたこと、あらためまして感謝申し上げます。

発足から30年という歴史を築き上げてきたことができましたことは、ひとえにボート場所在市町村という共有のもと、ネットワークの構築を図り、ボートへの熱い情熱をお持ちの関係各位みなさまのおかげであると考えます。

今後も協議会がさらに発展いたしますことをご祈念申し上げますとともに、本町も協議会加盟の一員として皆様とともに発展に向けて寄与していきたいと思っております。

結びに、本誌発刊にあたりご尽力いただきました関係各位のみなさまに深く感謝申し上げますとともに、本誌が将来に向けて先人の熱い思いを継承する貴重な資料となります貴重な資料となりますことをご祈念申し上げ、発刊に寄せるご挨拶といたします。



富山県 南砺市長
田中 幹夫

桂湖ボート場沿革

平成 5年 境川ダムが完成（計画着手より20年）

平成 8年 第1回住民レガッタを開催

平成10年 桂湖周辺施設が完成

ドイツのエンパッハ社製ボート21艇を購入

平成14年 中部選手権大会・全国中学選手権競漕大会を開催

平成17年 世界ボート選手権岐阜大会でカナダ・ギリシャ・

日本が事前合宿を実施

平成18年 第15回全国市町村交流レガッタ南砺大会を開催



石川県 津幡町長
矢田 富郎

当町は、昭和63年の設立時より加盟させていただいており、協議会と共に当町のボート競技の普及・発展が成されていると言っても過言ではありません。今後もボートサミットや全国市町村交流レガッタなどの協議会事業が、加盟市町村間の交流、ボート競技の更なる普及・発展に繋がっていくことと期待しております。



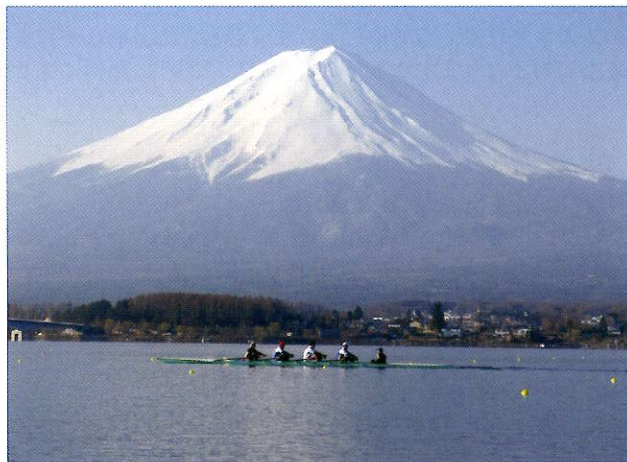


福井県 美浜町長
山口 治太郎

昭和63年に「ボートによるまちおこし」を掲げ、本町をはじめとする中部圏9市町村で発足した全国ボート場所在市町村協議会がこのたび30年を迎えるにあたり心よりお慶び申し上げます。

現在では、加盟自治体も32市町村を数えるまでになり、本町としましては、ボートサミットでの情報交換や交流を通じて深めた皆様との「絆」を大切に、皆様とともにボート競技の普及啓発に努めて参りたいと考えております。

結びに、平成30年には「福井しあわせ元気国体」のボート競技が本町で開催されます。本町としましても同国体を通じた加盟自治体との交流をより一層深めていくとともに、当協議会の輪が更に広がっていくことを祈念し、お祝いの言葉といたします。



山梨県 富士河口湖町長
渡辺 喜久男

役員の皆様、関係者の方々には、本協議会の運営に対し多大なご尽力を賜り、厚く感謝申し上げます。

この協議会の活動が、地域に定着し、ボート場を活用した特色豊かなふるさとづくりが推進されることを期待しております。

本協議会の益々の発展を心からご祈念申し上げます。



長野県 下諏訪町長
青木 悟

30年を迎えるにあたり、鎧塚最高顧問はじめ格別なご尽力をいただいた皆様に感謝申し上げます。本協議会の魅力の一つは、北から南まで全国各地の加盟自治体がボートを通じて連携を深め、ボートの普及振興のみならず、産業、文化など多岐にわたる分野で交流が可能であることだと思います。今後もより一層、加盟団体が増え自治体のみならず、ボートを愛する皆さんの交流が進むことを期待しております。





岐阜県 川辺町長
佐藤 光宏

協議会を設立し、道なき道を切り開き運営・発展させてこられた鎧塚一最高顧問をはじめ、先輩諸氏に心から感謝と敬意を表します。30年を機に、今後ますます加盟市町村が増加し、「ボート競技振興を通じたまちづくり」が全国に浸透しますよう、微力ながら努力させていただきます。



岐阜県 海津市長
松永 清彦

本市は1995年より加入いたしました。その間アジア初の世界ボート選手権が海津の地で開催できたことは誠に光栄であります。ボート競技の発展とともにまちづくりの一環としてより盛大になっていけるよう、またボート場を所有する市町村の友好を深める場として、ともに発展いたしますことを祈念しましてお祝いの言葉とさせていただきます。



静岡県 浜松市長
鈴木 康友

これまで協議会の発展にご尽力いただいた関係者の皆さまにはあらためて敬意を表します。

2020年東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、ボート競技への注目度も高まる中、当市の天竜ボート場・佐鳴湖漕艇場も競技力向上の一翼を担うことができると考えております。ボート競技の普及・振興のため、加盟市町村が一体となったさらなる取組みにご期待申し上げます。





愛知県 東郷町長

川瀬 雅喜

9市町村で発足した本協議会も32を数えるまでになり、これも偏に、関係各位のご尽力の賜物であると確信しております。

本町では、平成30年の高校総体ボート大会の準備を進めており、一層のボート振興に努めてまいります。

今後もボート場という共通財産を通じて、自治体間交流を深め、本協議会のますますの発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



愛知県 高浜市長

吉岡 初浩

本市は平成9年より当協議会に加入させていただき、微力ではありますが、加盟市町村のみなさまより多くのご助言をいただきながらボート競技を通じたまちづくりに勤しんでまいりました。今後もみなさまと交流を図り、お互いに高めあっていけるような貴重な時間が設けられていくことを祈念いたします

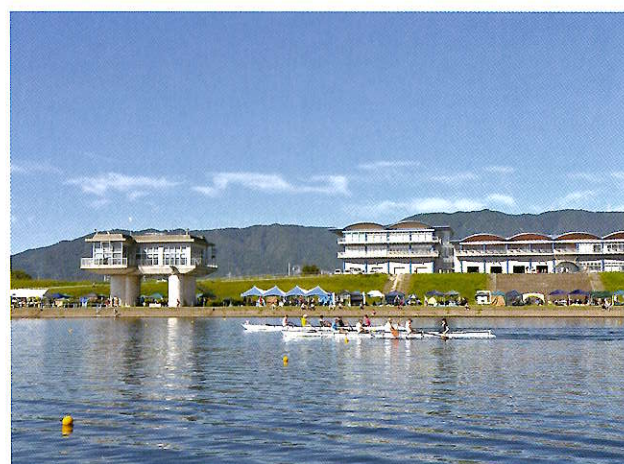


愛知県 愛西市長

日永 貴章

本市は平成18年より加入し、平成26年には加入市町村の皆様方のご尽力を賜り、「ボートサミットin愛西」を開催し、多数の皆様にご参加いただきました。

今後もボート競技の振興のみならず、地域の友好及び相互扶助ネットワーク機関としてのさらなる発展を念願し、お祝いの言葉とさせていただきます。





三重県 大台町長
尾上 武義

当町は、昭和63年の当協議会設立時から加盟させていただき、加盟市町村の皆様とともにボート場を活用した町づくりに取り組んでまいりました。今後もボート競技を通して加盟市町村の交流が図られることと、平成33年三重国体ボート競技会場としての準備に取り組んでまいります。加盟市町村の皆様には、今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。



三重県 桑名市長
伊藤 徳宇

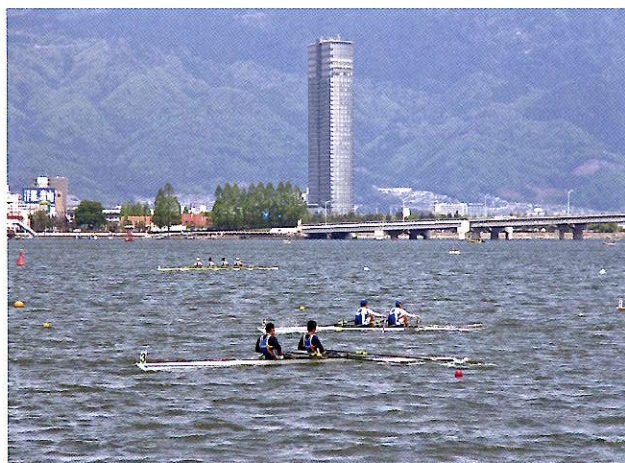
桑名市は、岐阜県海津市、愛知県愛西市と共に、毎年春と秋にレガッタ大会を開催しているほか、東京五輪に向けて、ボート競技などの事前キャンプを誘致しています。

これからは、ボート競技による交流や災害協定による相互応援に加え、加盟市町村の様々な事業についての情報交換も行い、そして連携し、より一層の地域振興にむけて取り組み、共に発展していきたいと思ひます。



滋賀県 大津市長
越 直美

ボートという幅広い年齢層が楽しむ事ができるスポーツを通じて、全国ボート場所在市町村の交流を深め、相互に課題解決に向かって取り組めるような関係を引続き築いていただくとともに、東京オリンピック・パラリンピックを契機としたホストタウン関連事業などの新しい取り組みに対しても、相互の地域活性化に繋がるよう中心的役割を担ってご活躍いただきたいと存じます。



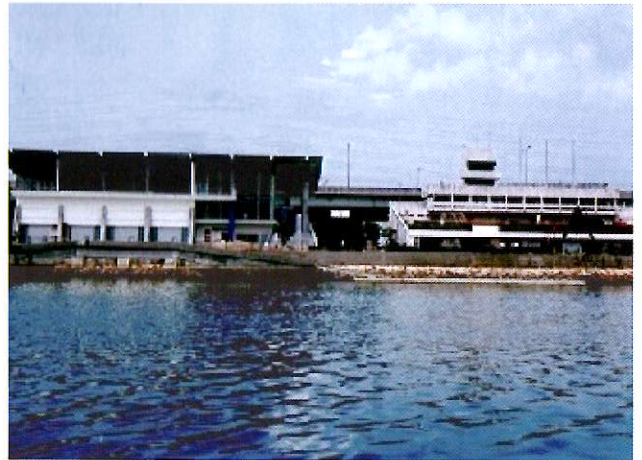


大阪府 高石市長
阪口 伸六

レガッタの開催や加盟団体間の災害時相互応援協定の締結など、ボート場という共通財産を通じて広域的な交流を深められてこられた貴協議会の活動に賛同し、平成29年度より加盟いたしました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、スポーツへの関心が高まっております。これを機にボートの普及・振興に積極的に活動されることを期待します。

最後に、貴協議会が30年を迎えられたことに敬意を表し、結びといたします。



兵庫県 豊岡市長
中貝 宗治

これまで協議会の発展にご尽力いただいた関係者の皆様に心から敬意を表します。

本市は、木造3階建ての旅館が並ぶ城崎温泉と円山川ボートコースが隣接しており、競技だけではなく、交流の場としても皆様に親しまれてきました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けても円山川の魅力を発信し、「小さな世界都市、豊岡」の実現にまい進いたします。

今後とも貴協議会の発展とボート競技の普及・振興のため、加盟市町村が一体となったさらなる取組みをご期待申し上げます。



兵庫県 加古川市長
岡田 康裕

当市は平成9年に加盟し、ボート競技の普及・振興に努めてまいりました。今後も加盟各市町村の皆様とともにボート場を生かしたまちづくりに取り組んでまいります。協議会におかれましては、加盟市町村の拡大並びに連携強化へのさらなる取組みに期待いたしております。

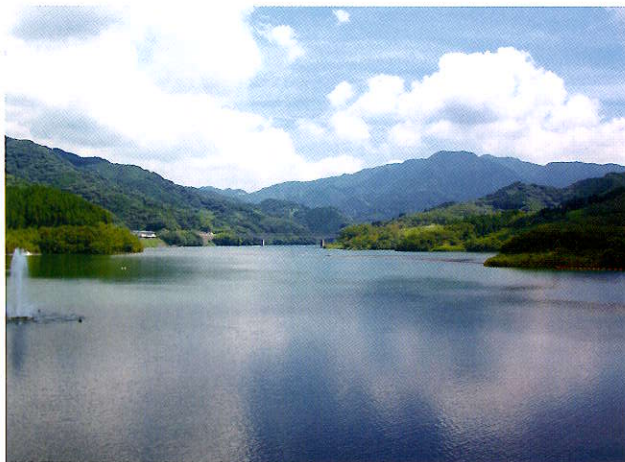




福岡県 遠賀町長
原田 正武

本協議会に加盟し26年が経過しますが、本町のボート事業は皆様に支えられ、全国ボート場所在市町村協議会と共に歩み続けているといっても過言ではありません。

今後とも、この全国ボート場所在市町村協議会が加盟市町村の熱意と愛情によって、より一層繋がりのある協議会へと前進していくことを願っております。



熊本県 菊池市長
江頭 実

今年発生した熊本地震では、加盟市町村の皆様には多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げますとともに協議会の連携・結束力の強さを改めて実感したところです。また本市斑蛇口湖ボート場は2020年東京オリンピックのノルウェーのキャンプ地として決定しており、これも偏に協議会の皆様のご支援の賜と併せて感謝申し上げます。

末筆ながら、今後の協議会の益々のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



大分県 日田市長
原田 啓介

私たちにとって「川」はいのちき※を支える、生活や歴史文化の源です。

「水が生まれ育つまち」に住む者にとって「川」はいつもそこにある存在であり、恵みや畏れ、そして共生の象徴です。

本協議会は水と隣り合わせの全国のまちまちな集まりであり、30年を過ぎても、競技振興とともに、将来にわたって一層、水の「絆」を深め合う場所となりますことを願っております。

(※いのちき=暮らしや生計を意味する大分の方言)





宮崎県 新富町長
土屋 良文

30年という歴史を振り返るとき、「ボートによるまちおこし」を掲げ、協議会設立にご尽力された関係者の皆様に敬意を表します。本町は、河川の入り江の自然を生かした漕艇場を有し平成3年に加盟いたしました。平成9年にはボートサミットを、平成13年には全国交流レガッタ大会を開催し、ボートを通じた交流を図る事が出来ました。「ボート場」という共通の財産を通じた交流と絆を深めボート場所在市町村協議会が発展していくことをご祈念申し上げます。



鹿児島県 薩摩川内市長
岩切 秀雄

全国ボート場所在市町村協議会は、設立して以来、ボートサミットや全国市町村交流レガッタ大会の開催など各市町村の交流人口の増加やボート競技の普及・振興に努めてこられました。本市も毎年川内レガッタ大会の上位チームを全国市町村交流レガッタ大会に派遣しており、ボートを通じ全国の皆様と情報交歓会や交流を深めていただいております。

全国ボート場所在市町村協議会の今後益々のご発展を心からご祈念申し上げます。

全国ボート場所在市町村協議会規約

(名 称)

第1条 この会の名称は、全国ボート場所在市町村協議会（以下「協議会」という。）とし、略称を「ボートサミット」とする。

(目 的)

第2条 本協議会は、全国ボート場所在市町村の文化、経済など広い範囲にわたり、共通の基盤を有する各自治体が、一層の地域振興、ふるさとづくりを推進するために相互に情報を交換し、協調を深め、もって広域的課題の解決に取り組むことを目的とする。

(事 業)

第3条 協議会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) ボート場及びその周辺の活用に関する情報の交換と相互交流。
- (2) 青少年の健全な育成と住民に対するボートの普及。
- (3) 地域振興に関する相互の支援。
- (4) 全国市町村交流レガッタ（以下「交流レガッタ」という。）の開催。
- (5) その他必要な事業。

(組 織)

第4条 協議会は、別表に定める市町村で組織し、その首長は、協議会の委員（以下「委員」という。）になる。

(役 員)

第5条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1人
- (2) 副会長 若干名
- (3) 監 事 2人

(役員を選任及び任期)

第6条 会長、副会長及び監事は、委員の互選により、協議会の会議（以下「会議」という。）の承認を得る。

- 2 役員任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の任期については、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第7条 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する副会長がその職務を代理する。
- 3 監事は、協議会の会計を監査する。

(役員会)

第8条 役員会は、第5条に定める役員をもって組織する。

- 2 役員会は、会議の開催に伴う議題の検討及び事業計画、予算、決算等のための調査、研究を行うものとする。

(最高顧問、名誉顧問、顧問及び参与)

第9条 協議会の目的を達成するために必要な助言及び協力を得るため、協議会に最高顧問、名誉顧問、顧問及び参与を置く。

2 最高顧問、名誉顧問、顧問及び参与は、会議の議決を経て会長が委嘱する。

(会議)

第10条 会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 会議開催地の決定に関する事。
- (2) 交流レガッタ開催地の決定に関する事。
- (3) 規約の変更に関する事。
- (4) 事業計画及び予算に関する事。
- (5) 事業報告及び決算に関する事。
- (6) 新規加入及び脱退に関する事。
- (7) 最高顧問、名誉顧問、顧問及び参与に関する事。
- (8) その他、会長が必要と認めた事項。

2 会議は、年一回開催するものとし、会長が招集する。ただし、会長が必要と認めたときは、臨時に招集することができる。

3 会議の開催地及び日時並びに会議に付すべき事項は、あらかじめ委員に通知しなければならない。

(会議の運営)

第11条 会議は、委員又は委員の代理出席者の半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議開催地の首長は、会議の議長となり第10条の規定による事項を審議しなければならない。

3 審議事項は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(経費)

第12条 協議会の経費は、加盟市町村において負担する会費、寄付金その他の収入をもって充てる。

(加入及び脱退の届出)

第13条 協議会への加入及び脱退の届出は、全国ボート場所在市町村協議会加入届（別記様式1）及び全国ボート場所在市町村協議会脱退届（別記様式2）によるものとし会議の決議を経て決定する。

(会費及び会計)

第14条 第12条に規定する会費は、年額次のとおりとする。

- | | |
|----------------|----------|
| (1) 人口10万人以上の市 | 230,000円 |
| (2) 人口10万人未満の市 | 220,000円 |
| (3) 人口3万人以上の町 | 170,000円 |
| (4) 人口3万人未満の町 | 160,000円 |
| (5) 村 | 130,000円 |

2 会費算定人口は、会費を支払い年の前年の総人口とする。

3 協議会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局の設置)

第15条 協議会の事務局は、会長所在市町村に置く。

(委任)

第16条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規約は、公布の日から施行し平成5年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、公布の日から施行し平成10年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、公布の日から施行し平成18年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、公布の日から施行し平成21年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、公布の日から施行し平成26年4月1日から適用する。

別 表

青森県	むつ市	岐阜県	海津市
岩手県	花巻市	静岡県	浜松市
宮城県	登米市	愛知県	東郷町
秋田県	由利本荘市	愛知県	高浜市
秋田県	大潟村	愛知県	愛西市
福島県	喜多方市	三重県	大台町
茨城県	潮来市	三重県	桑名市
埼玉県	戸田市	滋賀県	大津市
千葉県	香取市	大阪府	高石市
新潟県	阿賀町	兵庫県	豊岡市
富山県	南砺市	兵庫県	加古川市
石川県	津幡町	福岡県	遠賀町
福井県	美浜町	熊本県	菊池市
山梨県	富士河口湖町	大分県	日田市
長野県	下諏訪町	宮崎県	新富町
岐阜県	川辺町	鹿児島県	薩摩川内市

別記様式1（第11条）

全国ボート場所在市町村協議会加入届

県	市 町 村
---	-------------

- | | | | | |
|-------------|-----------------|---|---|-------|
| 1 市町村勢の概要 | 年 | 月 | 日 | 現在 |
| (1) 人口及び世帯数 | 人 | | | 世帯 |
| (2) 面 積 | km ² | | | |
| (3) 一般会計予算 | | | | (年度) |
| (4) 交 通 | | | | |
| (5) 位置及び地勢 | | | | |

2 漕艇の概要

3 主産業

4 観光、イベント

5 特産品

ボート場所在市町村協議会に加入いたしたくお届けいたします。

年 月 日

県

市町村長

印

全国ボート場所在市町村協議会議会議長懇話会規約

(名 称)

第1条 この会は、全国ボート場所在市町村協議会議会議長懇話会（以下「議長懇話会」という。）という。

(議長懇話会を組織する議長)

第2条 この議長懇話会は、別表に掲げる全国ボート場所在市町村協議会（以下「協議会」という。）加盟市町村の議会の議長をもって構成する。

(目 的)

第3条 議長懇話会は、加盟市町村議会を代表する機関と位置づけ、その議会に対し、ボート場という共通の基盤を有する自治体議会として、また、住民の代表としてボート場を活用しての地域の活性化及びふるさとづくりに主体的に行動すること並びに議会相互の情報交換、交流を促進するとともに、ボート場のある協議会未加盟市町村議会に対し加盟の呼びかけを行い、もって協議会の発展に寄与することを目的とする。

(役員及び任期)

第4条 議長懇話会に次の役員を置く。

- (1) 代表幹事 1人 協議会会長の属する議会議長
 - (2) 幹事 5人 協議会副会長の属する議会議長
- 2 役員任期は、各議会の議長の任期による。

(役員職務)

第5条 代表幹事は、会務を総理し、議長懇話会を代表する。

- 2 幹事は、代表幹事を補佐し、代表幹事に事故あるとき、又は欠けたときは、代表幹事があらかじめ指名する幹事がその職務を代理する。

(事務局)

第6条 この議長懇話会の事務局は、代表幹事の属する議会事務局に置く。

(会 議)

第7条 議長懇話会会議（以下「会議」という）は、協議会の主催する全国市町村交流レガッタの開催日初日及び開催地で開くこととする。

- 2 会議の招集は、第4条に規定する代表幹事が行う。
- 3 会議の進行は、開催地の議会議長が執り行うこととする。
- 4 議長が出席できないときは、副議長または副議長相当職の代理出席ができるものとする。
- 5 決議する事項が生じたときは、出席議長（委任状提出者含む）の過半数の賛成でもって決する。
- 6 会議には、協議会役員市町村長及び顧問並びに各議会事務局の出席を求めるものとする。
- 7 会議は、第1項に規定する会議のほか、臨時に開くことができるものとする。

(委 任)

第8条 この規約に定めるもののほか、議長懇話会の運営に関して必要な事項は、協議会と協議し定める。

附 則

この規約は、平成17年3月1日から施行する。

全国ボート場所在市町村協議会 加盟市町村災害時相互応援協定書

全国ボート場所在市町村協議会加盟市町村は、加盟市町村に災害が発生した場合において、地域並びに住民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、災害対策基本法及び相互友愛精神に基づき、被災加盟市町村に対し、実情に応じた実施可能な方法と範囲で応援活動を行うものとし、次のとおり協定を締結する。

(趣 旨)

第1条 この協定は、全国ボート場所在市町村協議会加盟市町村（以下「加盟市町村」という。）において、災害が発生し、被災加盟市町村独自では十分に被災者の救護等の応急措置ができないと認められるとき、又は、応援要請があった場合に加盟市町村相互の応援による応急措置等を円滑に遂行するため、必要な事項について定めるものとする。

(協定市町村)

第2条 この協定は、別記に掲げる加盟市町村の相互間において行うものとする。

(連絡の窓口)

第3条 加盟市町村は、あらかじめ災害時における救援活動等に関する連絡調整を行うため、相互応援に関する担当部局を定め、災害が発生したときは、相互に連絡するものとする。

(応援・支援の内容)

第4条 応援の内容は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 被災者の救助、医療、防疫、施設の応急復旧等に必要な資機材又は物資の提供
- (2) 食料、飲料水、生活必需品、医薬品その他供給に必要な資機材の提供
- (3) 救援及び救助活動に必要な車両等の提供
- (4) 救助及び応急措置に必要な職員等の応援
- (5) 応急対策及び復旧・復興対策を円滑に遂行するため、被災者の一時的な受入についても、可能な限り支援するものとする。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、特に要請がある事項

(応援要請の手続)

第5条 応援を受けようとする被災加盟市町村は、次に掲げる事項を明確にして、電話・地域衛星通信ネットワークその他有効な通信手段により他の加盟市町村に要請し、後に文書を速やかに提出するものとする。

- (1) 被害の状況

(2) 応援を要請する内容

ア 物資・資機材の搬入

必要物資等の品目・数量、搬入場所、輸送手段、交通情報等

イ 人員の派遣

職種、人数、派遣場所、活動内容、派遣期間、輸送手段、交通情報等

ウ その他、必要な事項

(緊急時における自主的応援)

第6条 加盟市町村は、災害発生時において、通信の途絶等により被災地状況等の情報が入手できない場合又は事態が緊急を要するときは、速やかに被災地状況等について自主的に情報収集・提供を行い、応援要請の有無にかかわらず、自らの判断により必要な応援措置を行うものとする。

(指揮権)

第7条 応援を行う加盟市町村の職員等は、被災加盟市町村の首長の指揮下に入り行動するものとする。

(経費の負担)

第8条 応援に要した費用は、法令その他に特段の定めがある場合のほか、原則として応援を要請した加盟市町村の負担とする。

2 前項に定めるもののほか、応援職員等の派遣に要する経費については、被災市町村及び応援市町村が協議して定める。

3 物資等の経費については、応援を要請した加盟市町村の負担とする。

(情報交換)

第9条 加盟市町村は、この協定に基づく応援が円滑に行われるよう、必要な資料若しくは情報を相互に交換するものとする。

(協 議)

第10条 この協定に定めのない事項で、特に必要が生じた場合は、加盟市町村がその都度協議し定めるものとする。この場合、当該年度の全国ボート場所在市町村協議会事務局が担当する。

附 則

(施行期日)

1 この協定は、平成24年7月27日から施行する。

(協定の成立)

2 この協定の成立は、全国ボート場所在市町村協議会加盟市町村長の同意をもって証する。

災害被災に係る見舞金支給基準

加盟市町村が地震、風水害等により被害を被ったとき、協議会から次の基準により見舞金を支給するものとする。

- 1 災害救助法が適用されたとき 5万円及び見舞電報
- 2 災害救助法が適用されなくても、甚大な被害を被ったとき
3万円及び見舞電報
- 3 1, 2以外で支給することが適当と協議会長が判断したとき
2万円及び見舞電報
- 4 1, 2のとき、協議会長は、加盟市町村長に見舞金の支給を呼びかけるものとし、その支給額は、各市町村の判断とする。

香料等支給基準

加盟市町村の首長等が不幸にも死去されたときは、協議会から次の基準により香料等を支給するものとする。

- 1 市町村長及び顧問本人が在職中に死去したとき 2万円又は供花1基及び弔慰電報

なお、協議会長は、死去した旨を加盟市町村長に報告するものとする。

祝電打電基準

加盟市町村長が選挙等により交替したときは、協議会長名で祝電を打電するものとする。

いずれの基準も施行は、平成16年7月16日からとする。

全国ポート場所在市町村協議会役員就任状況

在任期間	役職名	市町村名	氏名
平成5年度 ） 平成6年度 平成4年までは、 規約が制定されて いませんでした。	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問	川辺町 本荘市 戸田市 下諏訪町 美浜町 小見川町 大台町	遠藤 稔 柳田 弘 斎藤 純忠 高木 清充 綿田 光雄 春日吉五郎 野村 祥紹 鎧塚 一
平成7年度 ） 平成8年度	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問 〃 〃	美浜町 本荘市 戸田市 下諏訪町 米子市 小見川町 大台町 川辺町	綿田 光雄 柳田 弘 斎藤 純忠 新村 益雄 森田 隆朝 鈴木 弘治 千原 淳 鎧塚 一 高木 清充 遠藤 稔
平成9年度 ） 平成10年度	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問 〃 〃	美浜町 本荘市 小見川町 天竜市 米子市 東郷町 遠賀町	綿田 光雄 柳田 弘 鈴木 弘治 中谷 良作 森田 隆朝 武藤 敏夫 高山 和幸 鎧塚 一 高木 清充 遠藤 稔
平成11年度 ） 平成12年度	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問 〃 〃 〃	天竜市 本荘市 小見川町 津川町 米子市 加古川市 東郷町 遠賀町	中谷 良作 柳田 弘 鈴木 弘治 長谷川 東二 森田 隆朝 木下 正一 石川 伸作 高山 和幸 鎧塚 一 綿田 光雄 高木 清充 遠藤 稔

在任期間	役職名	市町村名	氏名
平成13年度 ） 平成14年度	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問 〃 〃	天竜市 東郷町 小見川町 遠賀町 加古川市 新富町 両津市	中谷 良作 石川 伸作 岩山 豊彦 高山 和幸 木下 正一 川越 俊宏 川口 徳一 鎧塚 一 綿田 光雄 遠藤 稔
平成15年度 ） 平成16年度	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問 〃 〃	東郷町 大潟村 富士河口湖町 城崎町 佐渡市 新富町 海津町 川内市 天竜市	石川 伸作 黒瀬 喜多 小佐野常夫 西村 肇 高野宏一郎 川越 俊宏 平野 義明 森 卓朗 鎧塚 一 綿田 光雄 中谷 良作
平成17年度 ） 平成18年度	会長 副会長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 監事 〃 顧問 〃 〃	東郷町 大潟村 富士河口湖町 豊岡市 津幡町 新富町 海津市 薩摩川内市 天竜市	石川 伸作 黒瀬 喜多 小佐野常夫 中貝 宗治 村 隆一 川越 俊宏 松永 清彦 森 卓朗 鎧塚 一 綿田 光雄 中谷 良作

在任期間	役職名	市町村名	氏名
平成19年度 ┆ 平成20年度	会長	川辺町	佐藤 光宏
	副会長	喜多方市	白井 英男
	〃	潮来市	裕田 千春
	〃	津幡町	村 隆一
	〃	加古川市	樽本 庄一
	〃	薩摩川内市	森 卓朗
	監事	南砺市	溝口 進
	〃	菊池市	福村 三男
	顧問		鎧塚 一
	〃		中谷 良作
〃		石川 伸作	
平成21年度 ┆ 平成22年度	会長	川辺町	佐藤 光宏
	副会長	喜多方市	白井 英男
	〃	潮来市	裕田 千春
	〃	南砺市	田中 幹夫
	〃	加古川市	樽本 庄一
	〃	薩摩川内市	岩切 秀雄
	監事	下諏訪町	青木 悟
	〃	菊池市	福村 三男
	最高顧問		鎧塚 一
	名誉顧問		大久保尚武
顧問		中谷 良作	
〃		石川 伸作	
平成23年度 ┆ 平成24年度	会長	下諏訪町	青木 悟
	副会長	大潟村	高橋 浩人
	〃	香取市	宇井 成一
	〃	大台町	尾上 武義
	〃	豊岡市	中貝 宗治
	〃	遠賀町	原田 正武
	監事	愛西市	八木 忠男
	〃	日田市	佐藤 陽一
	〃	日田市	原田 啓介 <small>(平成23年7月から)</small>
	最高顧問		鎧塚 一
名誉顧問		大久保尚武	
顧問		大原八十八	
〃		中谷 良作	
〃		石川 伸作	
〃		佐藤 光宏	

在任期間	役職名	市町村名	氏名
平成25年度 ┆ 平成26年度	会長	下諏訪町	青木 悟
	副会長	大潟村	高橋 浩人
	〃	香取市	宇井 成一
	〃	大台町	尾上 武義
	〃	豊岡市	中貝 宗治
	〃	遠賀町	原田 正武
	監事	愛西市	八木 忠男
	〃	愛西市	日永 貴章 <small>(平成25年5月から)</small>
	〃	日田市	原田 啓介
	最高顧問		鎧塚 一
名誉顧問		大久保尚武	
顧問		大原八十八	
〃		中谷 良作	
〃		石川 伸作	
〃		佐藤 光宏	
平成27年度 ┆ 平成30年度	会長	南砺市	田中 幹夫
	副会長	登米市	布施 孝尚
	〃	登米市	熊谷 盛廣 <small>(平成29年4月から)</small>
	〃	戸田市	神保 国男
	〃	高浜市	吉岡 初浩
	〃	大津市	越 直美
	〃	日田市	原田 啓介
	監事	美浜町	山口治太郎
	〃	新富町	土屋 良文
	最高顧問		鎧塚 一
名誉顧問		大久保尚武	
顧問		大原八十八	
〃		舘 次郎	
〃		中谷 良作	
〃		石川 伸作	
〃		佐藤 光宏	
〃		青木 悟	

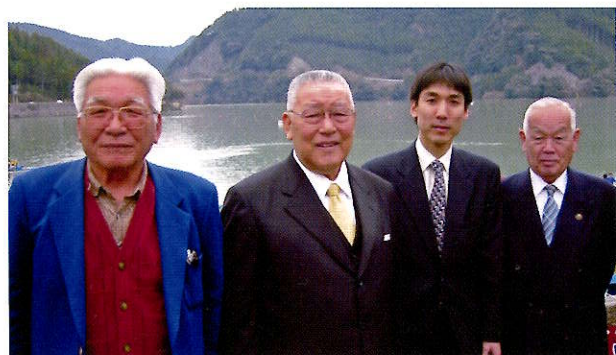


「ボートによるまちおこし」から30年経ちました。

最高顧問 鎧塚

鎧塚 最 高 顧 問 の 個 人 史

私の歩んだ九十余年。



● 略歴

大正13年12月 富山県射水郡水戸田村 生まれ
 昭和12年 3月 水戸田尋常高等小学校尋常科 卒業
 昭和12年 4月 富山県立高岡中学校 入学
 昭和18年 3月 富山県立高岡中学校 卒業
 昭和18年 4月 早稲田大学専門部商科 入学
 昭和20年 9月 早稲田大学専門部商科 卒業
 昭和21年 4月 早稲田大学商学部 入学
 昭和24年 3月 早稲田大学商学部 (旧制) 卒業
 昭和24年 4月 トヨタ自動車工業(株) 入社
 昭和26年 5月 トヨタ自動車工業(株) 漕艇部創設
 昭和30年 4月 拳母高校・猿投農林高校漕艇部設立に尽力
 昭和30年 6月 矢作レガッタ 創設
 昭和31年 6月 中日本レガッタ設立に理事として参画
 昭和35年10月 ブラジルトヨタに3年間出向
 昭和40年 3月 愛知県漕艇協会理事長 就任
 昭和40年 5月 日本漕艇協会理事 就任
 昭和42年 3月 愛知県体育協会理事 就任
 昭和43年 6月 福井レガッタ創設を提言

昭和50年 3月 中部漕艇連盟設立 同理事就任
 昭和50年 7月 中部選手権競漕大会 創設
 昭和53年 5月 諏訪湖レガッタ設立を提言
 昭和54年 3月 愛知県体育協会副会長 就任
 昭和54年 7月 全国中学選手権競漕大会 創設
 昭和56年 3月 愛知県体育協会副会長退任 同顧問就任
 昭和61年 1月 トヨタ自動車(株)定年退職
 昭和61年 3月 愛知県ボート協会理事長退任 同顧問就任
 昭和62年 5月 日本ボート協会理事退任 同顧問就任
 昭和63年10月 中部漕艇連盟傘下漕艇場所在市町村協議会創立 同顧問就任
 平成 元年 3月 中部ボート連盟理事長退任 同副会長就任
 平成 元年10月 中部漕艇連盟傘下漕艇場所在市町村協議会を 全国漕艇場所在市町村協議会に名称変更
 平成 2年 3月 全国高等学校選抜競漕大会設立に尽力
 平成 4年10月 全国市町村交流レガッタ 創設
 平成20年 8月 全国ボート場所在市町村協議会 最高顧問就任

首長会議（ポートサミット）



第7回 漕艇場所在地市町村協議会（ポートサミット） 石川県津幡町 平成6年10月1日



第9回 漕艇場所在地市町村首長会議（ポートサミット in よなご） 鳥取県米子市 平成8年7月13日



第10回 漕艇場所在地市町村首長会議（ポートサミット in しんとみ） 宮崎県新富町 平成9年8月23日

首長会議（ポートサミット）



第13回 漕艇場所在地市町村首長会議（ポートサミット in とうごう） 愛知県東郷町 平成12年 8月19日



第27回 全国ボート場所在市町村協議会首長会議



第23回 全国ボート場所在市町村協議会首長会議



第23回 全国ボート場所在市町村協議会首長会議 富山県南砺市 平成22年7月3日

第27回 全国ボート場所在市町村協議会
首長会議



愛知県愛西市 平成26年7月19・20日

市町村交流レガッタ



第1回 全国市町村交流レガッタ美浜大会 福井県美浜町 平成4年10月18日



第2回 全国市町村交流レガッタ下諏訪大会 長野県下諏訪町 平成5年10月10日



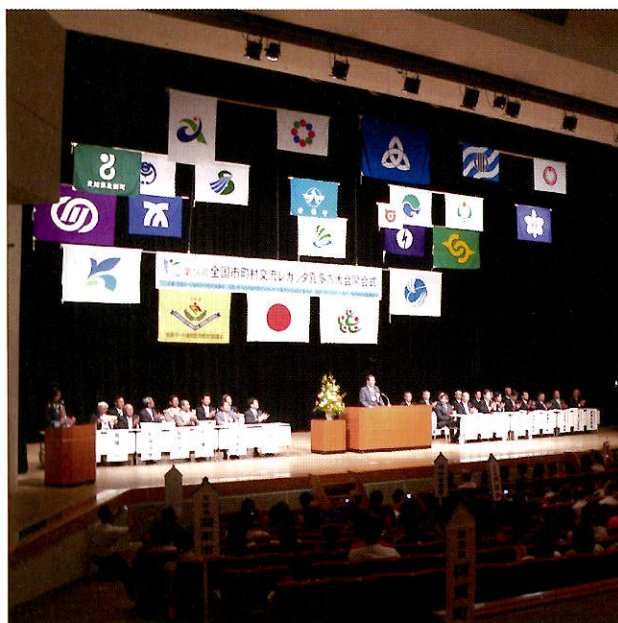
第7回 全国市町村交流レガッタ小見川大会 千葉県小見川町 平成10年9月27日



第9回 全国市町村交流レガッタ加古川大会 兵庫県加古川市 平成12年 9月24日



第15回 全国市町村交流レガッタ南砺大会 富山県南砺市(旧上平村) 平成18年 9月2・3日



第16回 全国市町村交流レガッタ喜多方大会 福島県喜多方市(旧高郷村) 平成19年 9月29・30日

市町村交流レガッタ



全国ボート場所在市町村協議会設立20周年記念 第17回 全国市町村交流レガッタ海津大会
岐阜県海津市 平成20年 9月27・28日

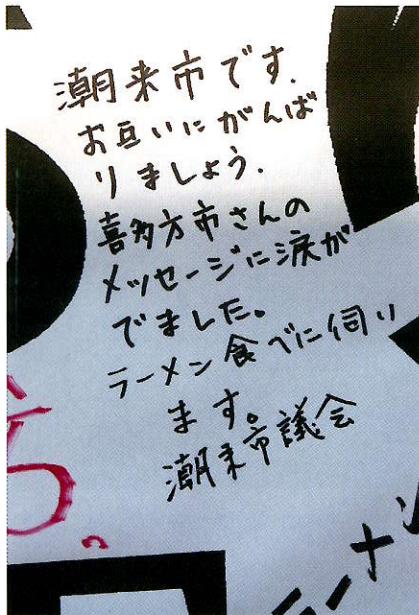


第18回 全国市町村交流レガッタ下諏訪大会 長野県下諏訪町 平成21年10月3・4日

市町村交流レガッタ



第19回 全国市町村交流レガッタ加古川大会 兵庫県加古川市 平成22年 9月25・26日

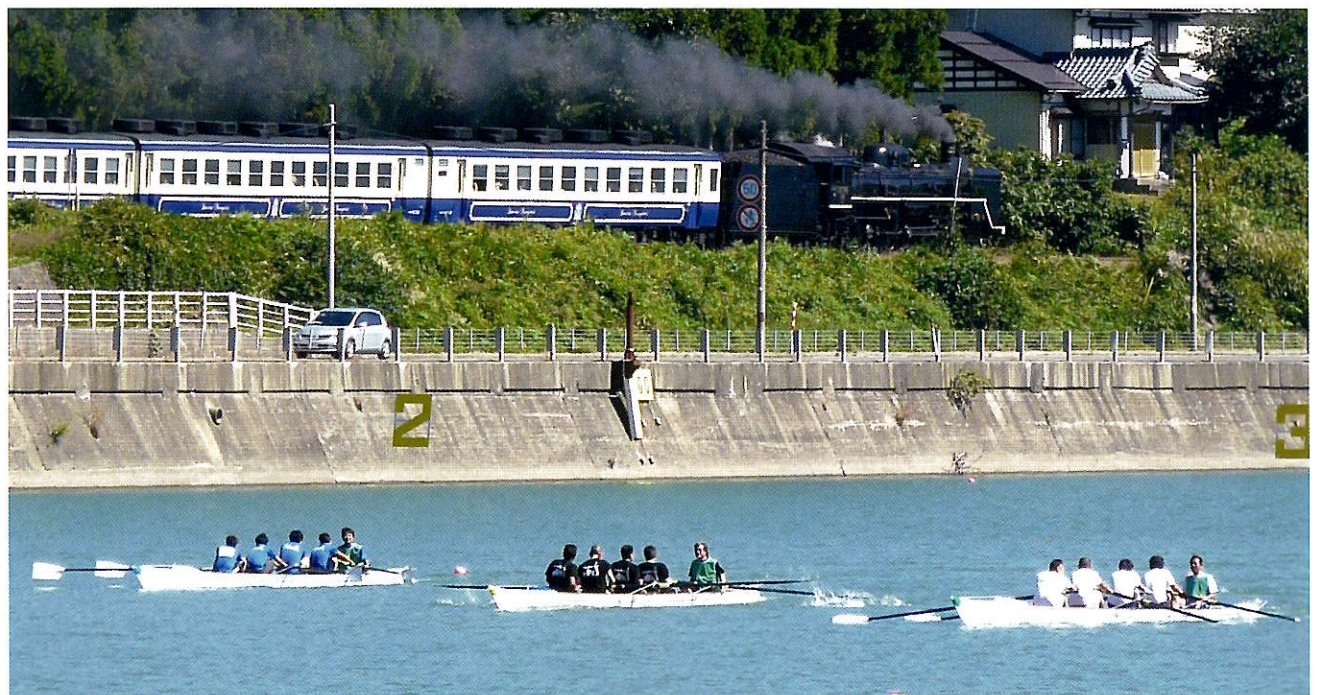
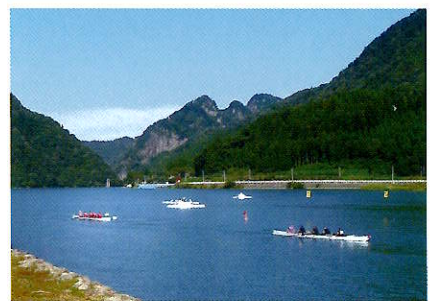


第20回 全国市町村交流レガッタ豊岡大会 兵庫県豊岡市 平成23年 9月24・25日

市町村交流レガッタ



第21回 全国市町村交流レガッタ豊岡大会 兵庫県豊岡市 平成24年 9月29・30日



第22回 全国市町村交流レガッタ阿賀大会 新潟県阿賀町 平成25年 9月28・29日

市町村交流レガッタ



第23回 全国市町村交流レガッタ大潟大会 秋田県大潟村 平成26年 9月20・21日



第24回 全国市町村交流レガッタ津幡大会 石川県津幡町 平成27年 9月26・27日

市町村交流レガッタ

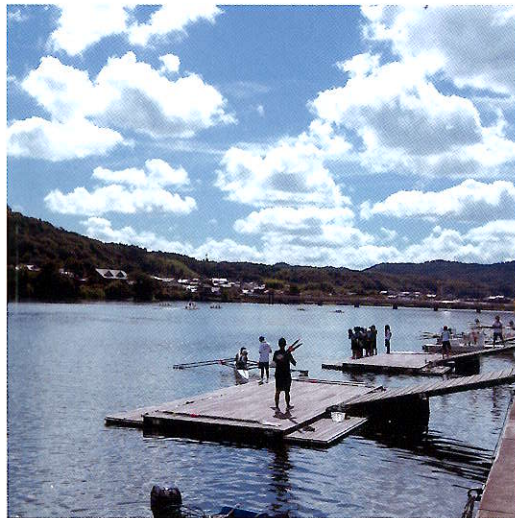


第25回 全国市町村交流レガッタ戸田大会 埼玉県戸田市 平成28年 9月17・18日

全国のボートコース



埼玉県戸田市 戸田ボートコース



岐阜県川辺町 川辺漕艇場



福岡県遠賀町 遠賀川漕艇場

おだやかで広大な遠賀川の流れ。白熱した漕艇競技の躍動感が水上を駆け抜けます。ここ遠賀川漕艇場は、直線2キロメートルに及ぶコースで、九州朝日レガッタの大会会場にもなっているほか、国体の競技会場、高校・大学の合宿の場としても使用されています。パワフルな町民レガッタは夏の風物詩となっています。



【レガッタについて】

イギリスで170年以上の歴史があるボート競技で、アテネオリンピックでは日本人クルーが決勝進出しました。イタリア・ベニスのゴンドラ競争が発祥です。

遠賀川漕艇場

九州朝日レガッタの大会会場



滋賀県大津市 琵琶湖漕艇場



福井県美浜町 久々子湖ボートコース



岩手県花巻市 田瀬湖ボートコース

ボートサミット・交流レガッタ開催地一覧表

平成29年7月現在

ボートサミット		
第1回	福井県美浜町	S 63.10.22
第2回	長野県下諏訪町	H 1.10.14
第3回	秋田県本荘市	H 2.9.29
第4回	岐阜県川辺町	H 3.8.10
第5回	三重県大台町	H 4.8.29
第6回	千葉県小見川町	H 5.7.24
第7回	石川県津幡町	H 6.10.1
第8回	静岡県天竜市	H 7.8.26
第9回	鳥取県米子市	H 8.7.13
第10回	宮崎県新富町	H 9.8.23
第11回	新潟県津川町	H 10.9.5
第12回	秋田県大潟村	H 11.8.21
第13回	愛知県東郷町	H 12.8.19
第14回	新潟県両津市	H 13.8.18
第15回	岐阜県海津町	H 14.6.29
第16回	兵庫県城崎町	H 15.8.30
第17回	茨城県潮来市	H 16.6.26
第18回	山梨県富士河口湖町	H 17.6.25
第19回	兵庫県加古川市	H 18.7.22
第20回	埼玉県戸田市	H 19.7.14
第21回	鹿児島県薩摩川内市	H 20.8.9
第22回	福岡県遠賀町	H 21.7.4
第23回	富山県南砺市	H 22.7.3
第24回	福島県喜多方市	H 23.5.23
第25回	愛知県高浜市	H 24.7.27
第26回	大分県日田市	H 25.6.1
第27回	愛知県愛西市	H 26.7.19・20
第28回	熊本県菊池市	H 27.7.17・18
第29回	滋賀県大津市	H 28.7.14・15
第30回	福井県美浜町	H 29.7.14・15
第31回	宮城県登米市	H 30.
第32回	岩手県花巻市	H 31.
第33回	三重県桑名市	H 32.
第34回	宮崎県新富町	H 33.
第35回	山梨県富士河口湖町	H 34.
第36回		H 35.

交流レガッタ		
第1回	福井県美浜町	H 4.10.18
第2回	長野県下諏訪町	H 5.10.10
第3回	石川県津幡町	H 6.10.2
第4回	秋田県本荘市	H 7.9.28
第5回	岐阜県川辺町	H 8.10.13
第6回	三重県大台町	H 9.9.28
第7回	千葉県小見川町	H10.9.27
第8回	埼玉県戸田市	H11.9.26
第9回	兵庫県加古川市	H12.9.24
第10回	宮崎県新富町	H13.10.21
第11回	新潟県両津市	H14.9.29
第12回	愛知県東郷町	H15.9.27・28
第13回	福井県美浜町	H16.9.25・26
第14回	静岡県浜松市(旧天竜市)	H17.9.24・25
第15回	富山県南砺市(旧上平村)	H18.9.2・3
第16回	福島県喜多方市(旧高郷村)	H19.9.29・30
第17回	岐阜県海津市	H20.9.27・28
第18回	長野県下諏訪町	H21.10.3・4
第19回	兵庫県加古川市	H22.9.25・26
第20回	茨城県潮来市(辞退) 兵庫県豊岡市(代替)	H23.9.24・25
第21回	兵庫県豊岡市	H24.9.29・30
第22回	新潟県阿賀町	H25.9.28・29
第23回	秋田県大潟村	H26.9.20・21
第24回	石川県津幡町	H27.9.26・27
第25回	埼玉県戸田市	H28.9.17・18
第26回	秋田県由利本荘市	H29.9.23・24
第27回	滋賀県大津市	H30.9.22・23
第28回	大分県日田市	H31.
第29回	鹿児島県薩摩川内市	H32.
第30回	茨城県潮来市	H33.
第31回		H34.
第32回	宮崎県新富町	H35.

1964 東京オリンピック

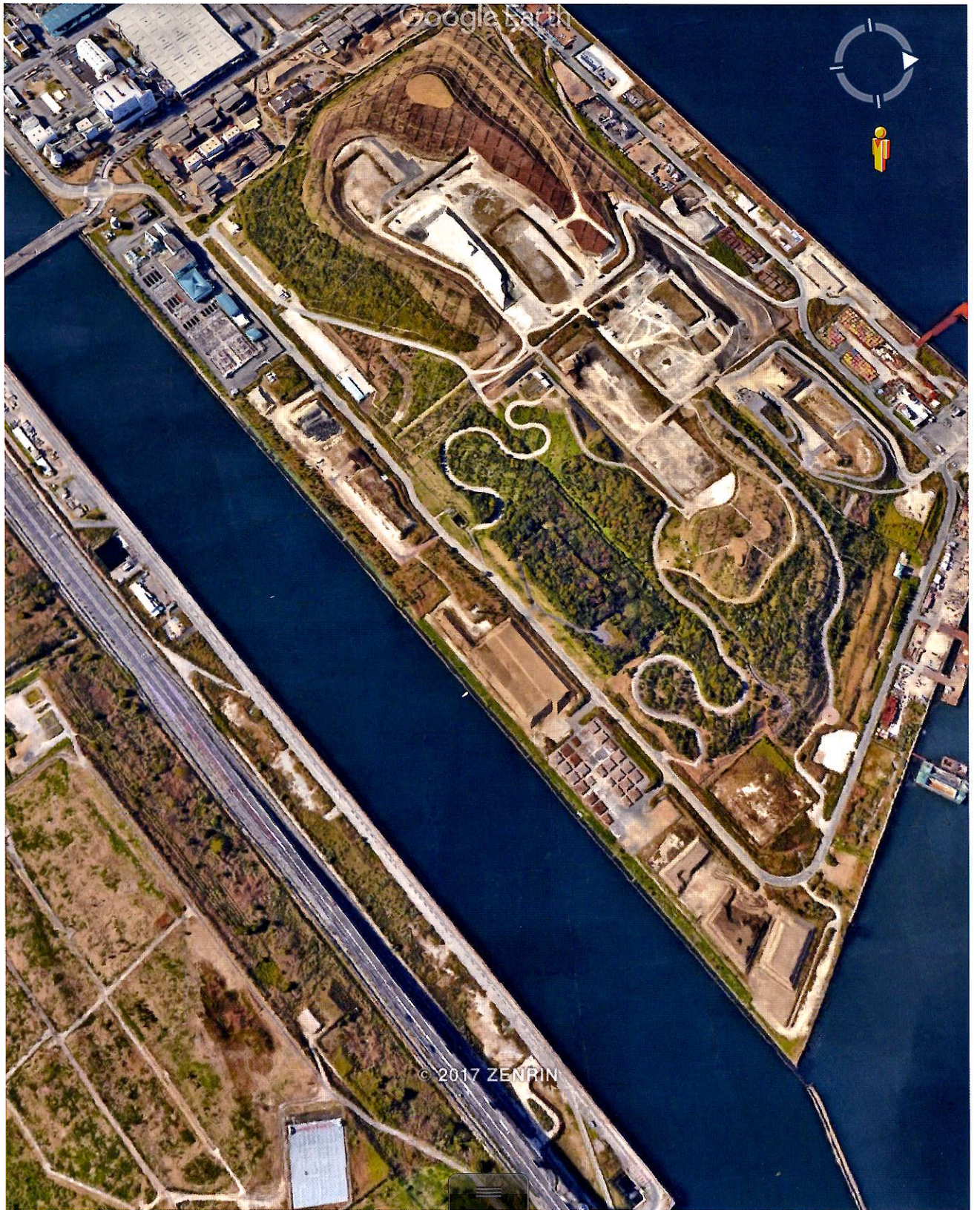


三領排水路記念誌瀧水地（戸田漕艇場）

外国人選手との交流



聖火台とレース



編集後記



ボートサミット30年沿革史編集準備委員会
委員長（顧問） 館 次郎

創立30年の節目に、当協議会の歩んでまいりました軌跡を沿革史へ編纂いたしました。

当協議会の沿革史作成は、意外にも初めてのことで、編纂にあたりましては、内容の充実と正確を期するよう努力いたしましたが、不慣れ未熟のため資料と記述の不備、不十分なども多いかと存じますが、何卒ご寛容を賜り、次回編纂に向けて御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本沿革史は、創立以来30年間をまとめた記録であるとともに、協議会の歴史を語り継ぐ上で、これから先、長きに渡っての礎となることを願って作成いたしました。

ご協力いただきました関係者の皆様には、心より厚くお礼と感謝を申し上げます。

平成29年 7月

創立30年記念誌 拡げようボートで繋げる地域の絆

発行 平成29年7月14日

編集 ボートサミット30年沿革史編集準備委員会

委員長 館 次郎（顧問）
委員長補佐 山田 政廣（中部ボート連盟理事長）
委員 石川 伸作（顧問）
委員 佐藤 光宏（顧問 岐阜県川辺町長）
委員 青木 悟（顧問 長野県下諏訪町町長）
事務局長 山崎 宏
事務局 下田 友康

印刷 牧印刷株式会社

全国ボート場所在市町村協議会加盟市町村位置図

